充実した技術開発力を基軸に ソリューション提案に取り組む！

㈱ウィズソル　代表取締役社長　中野 克己

新年明けましておめでとうございます。

今年度の概況を振り返りますと、東北、関東、中国の各地区における石油コンビナートのプラント定修工事が好調に推移した他、造船部門においてもＬＮＧ輸送船が連続建造となり、アルミ球殻の各種検査業務等がピークを迎えています。また、得意分野となる石油タンク等の腐食減肉検査も定量的に続いています。そのため、今年度（第58期）3月期の売上高は前期を上回る56億円台を見込めそうです。現場の検査員不足の課題もありますが、積極的に新卒採用を行い、マンパワーの維持に努めているところです。

さて、当社は昨年4月に旧社名「関西エックス線㈱」から「㈱ウィズソル」に社名変更致しました。お陰様で業界・大学関係者に新社名が広く浸透して来ました。皆様からは、社名を変更した事に「前向きな会社だ」「積極性を感じる」と高い評価を頂いております。社名に込めた「お客様と共に課題を解決する」姿勢にもご理解を頂き、現場で当社の装置開発担当者と、お客様の検査・設備保全担当者との間で「技術交流会」を開催し、当社が開発した装置について意見を交わしながら更なる要望をお聞きする機会も増えてきました。今後もソリューション提案に努めれば、潜在需要は掘り起こせると実感しています。

装置の技術開発では、ボイラ・熱交チューブ全面を高速で検査するチューブ肉厚測定装置「マルチチャンネル式水浸ＵＴ」が実用段階に入ってきました。シンプルかつコンパクトな構成でチューブの曲管部も通過できる特長を持ちます。

また、プラント配管や機械構造物の溶接部の残留応力除去・軟化・組織改善を目的に熱処理を行う局部熱処理用の焼鈍装置も自社製作しており、こちらも実用化が見えてきました。

サポイン事業で開発を進めてきた配管減肉検査装置「ハイパワーガイド波探傷装置」も実用化され、来年度からプラント埋設配管等の検査業務受注が進むと見込んでいます。

この他、タンク底板連続測定装置「ＵＤＴシリーズ」や配管連続板厚測定装置「ＵＤＰシリーズ」に関しては、改良を重ねながら増産しており、営業所毎に装置を設置するなど運用範囲が順調に拡大してきました。

人材育成については、ＪＩＳＺ２３０５のＮＤＩ資格認証制度に変更があった事から、社内の資格取得教育や技術教育の在り方も再検討を図ってきました。従来あった免許取得に伴う就業規則の規定を改訂した他、新たに広島・千葉の両事業所内に研修室を設け実技試験対策を徹底するなど、レベル2の再認証試験の合格率アップを目指してきました。新入社員も入社後2年でレベル2を最低1種目取得するよう指示しています。講習に参加できない社員には、実技のもようをＷｅｂ上で確認できるようにして支援しています。また、月毎に品質管理等の強化月間を設けてコンプライアンスの徹底にも努めました。

さて、事業の拡大に伴い、本社事務所も手狭になってきた事から、新社屋の建設計画を進めてきましたが、昨年末に漸く着工致しました。新社屋は3階建てで現在の2カ所ある本社事務所を統合するとともに、1階には開発ソリューション部を設置して装置の開発・研究所も完備する予定です。広い研修施設や会議室も新たに設ける事から、社員採用にあたってイメージ向上に寄与するものと捉えています。新社屋での本格的な業務開始は来年初めを予定しておりますが、「ウィズソル」のブランドイメージにふさわしい企業規模へと飛躍を期していきたいと考えております。

なお、本年は5～6月にかけてプラント定修工事が重なる事が予想され、検査員不足が深刻化する事も想定されます。無理な受注をして、万が一にも品質や納期トラブルを起こさないよう検査内容を精査しながら、「安全」を重視した検査業務を展開していく所存です。

つきましては、充実した技術開発力を基軸に、お客様の抱える課題に真摯に向き合い、的確な解決策を見出すソリューション提案に取り組んで参りますので、本年も引き続きご支援、ご協力を宜しくお願いします。